

(様式1)

令和4年度 学校経営計画書

石川県立鹿西高等学校

学校長 杉澤 寿治

1 教育目標

- ①自発的に学習する態度を養い、知性及び創造性豊かな人間の育成をめざす。
- ②心身ともに健康で、洞察力や判断力のある人間の育成をめざす。
- ③自主・自律の心と責任感を高め、実践力と協調性のある人間の育成をめざす。
- ④豊かな情操と道徳心を培うとともに、郷土を愛し、地域で躍進しようとする人材の育成をめざす。

2 中・長期的目標

(1) 学校の現状

- ①生徒の約91%(3年生)が進学希望であり、卒業生(令和3年度)の約49%が四年制大学、約43%が短大・専門学校に進学し、約7%が就職している。
- ②多様な進路志望実現のためきめ細かい個別指導に取り組んでいるが、生徒の自発的な学習習慣を育成する必要がある。
- ③生徒会活動は活発で、学年を超えた縦割りのグループで互いに学び合いながら、相手をいたわる気持ちや感謝する心が育まれている。
- ④部活動加入率は91%と高く、学年を超えた仲間と共に夢をめざし、協調性や忍耐力が育まれている。
- ⑤素直で礼儀正しい生徒が多い反面、時として思慮に欠ける行動や積極性・自主性に欠ける傾向が見られる。
- ⑥不登校傾向の生徒や安易に欠席する生徒に対して、思春期における心の問題についての理解と早期発見に努める必要がある。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

- ①確かな学力を身につけるため、自ら進んで学習に向かうとともに、生涯にわたって学び続けることができる人間の育成をめざす。
- ②体力の増進に積極的に取り組み、心身共に健康な人間の育成をめざす。
- ③進路実現に向けて、自ら考え、計画を立て実践する人間の育成をめざす。
- ④実践力と社会性を身につけて、地域に誇りを持ち、将来地域に貢献する人間の育成をめざす。

(3) 教職員、学校組織等の望ましい在り方

- ①教職員一人一人が教職の使命と責任を自覚し、自らが時代の変化に対応できるよう意識改革に努め、生徒一人ひとりの自己実現に向けて全力を傾注する。
- ②学校評価システムの機能を高め、教職員の学校経営参画意識の向上を図り、組織として目標管理型学校経営を行う。
- ③全教職員が生徒一人一人に対する理解を深め、組織的な指導体制の強化を図ることで個に応じた教育の実践を目指す。
- ④保護者や地域社会に学校の経営方針や教育活動に関する情報を適宜発信することで、学校に対する信頼と協力を獲得する。

3 今年度の重点目標

(1) 学習習慣の確立と教科指導力の向上

- ①学ぶ楽しさや充実感、達成感の得られる授業を展開し、生徒が自ら計画を立て、進んで学習に向かう力を育成する。
- ②生徒の学習状況を把握し、個別指導、習熟度別指導や学習方法の指導を効果的に取り入れ、学習内容の着実な定着と学力向上に努める。
- ③若手教員早期育成プログラム、中高連携(中能登中学校との学習交流会等)、他校への授業参観、大学入試問題研究の推進等により指導力の向上に努める。
- ④GIGA 校内研修推進リーダーを中心とした校内研修を通じて、一人一台端末環境を生かした授業改善に取り組み、生徒の学びの質の向上を目指す。

(2) 豊かな人間性の育成、健康や体力の増進、たくましい人づくりの推進

- ①健康で安全な生活を送るための基本的な生活習慣を確立させるとともに、感染症対策の徹底を図る。
- ②生徒会活動や学校行事、部活動、ボランティア活動を通して、豊かな人間性や社会性を育む。
- ③生徒理解を深め、いじめ・暴力・ネットトラブル等の問題行動や不登校の未然防止と早期の対応に努める。

(3) キャリア教育の推進と進路指導体制の確立

- ①地域と連携した総合的な探究の時間等を通して、ふるさとや将来について考える機会を持たせ、主体的な進路の選択能力を育成するとともに、課題を発見し解決していくための資質・能力の育成を目指す。
- ②読書活動、進路学習、講演会、面談指導等を通して、明確な進路目標を持たせ、進路実現を目指す態度を早期に実現する。
- ③教職員間の連携・協力を密にし、指導方法や指導体制を工夫して、3年間を見通した進路指導体制を構築する。

(4) 保護者や地域から信頼される学校づくりの推進

- ①働き方改革への意識を高めながら業務改善を組織的に推進する。
- ②学校公開、ホームページ、学校だより、マスメディアなどによって広報活動の充実を図り、本校の教育活動の理解が深まるように努める。
- ③中学校の生徒や保護者に本校の教育活動の特色や魅力を伝え、本校への志願者の確保に努める。

